

コマツナ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り (元肥)	<p>右記を同時に全面に散布して均一に耕やし、ウネを整地する事</p> <p>播種までになるべく長く日数をおく事(20日以上が理想)</p>	<p>●ラクトバチルス600g →保水性・排水性がよく、肥沃な地力を作る。 ※一作を終えると土壤微生物群も消耗しているの、作付けごとに菌を投入して、堆肥を土ごと醗酵させる事を推奨。</p> <p>●堆厩肥500kg以上(年間3トン以上)</p> <p>●硫安60kg ※もし通常の複合肥料ならN:14kg程度で、特に日数をおく。 ※カルテック農法を継続する場合、ハウスでも無機肥料成分の残留が少ない(EC:0.2)ので、減肥しない事。ただし前作がカルテック農法でなく、チッソが特に多量に残留している場合(EC:0.5以上)は、チッソ施肥量を2/3程とし、カルシウムを増量する。 ※地力作りから播種までに日数の余裕が無い場合は、上記の材料を別に予め積込みして醗酵させたボカシ肥の施用を推奨。 ※いずれのやり方でも播種時には土壤EC:0.2前後とする。</p> <p>●畑の大将<青> 40kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 ※カルシウムが効いた小松菜は、葉が厚く、鮮緑色でツヤがあり、旨味があり、葉柄が折れにくく、根が白くキレイで、鮮度を長く保つ。当然、カルシウムやビタミンCも豊富。</p>
播種時	播種・覆土後の灌水時 (充分に灌水)	<p>●根っ酵素500倍液 →出芽と根張りを均一に揃えて促進。 ※通常、播種後に充分に灌水し、この時10アール当り2ℓ程度を与える。希釈倍率は500倍以上だが、水量により適宜に。2~5日で揃って出芽し、萎黄病にも強くなる。 ※これ以後は灌水しない。もし土が乾き過ぎたり、根張り・生長が不均一で良くない場合は、調節の意味で中期(15日)までに一度、根っ酵素液を混ぜて灌水する。この時はすでに子葉・本葉があるので、希釈倍率は500倍~1000倍とする。</p>
生育途中の調節	葉面散布 2つの液の葉面散布を適宜、使い分けてコント	<p>●根っ酵素500倍を液葉面散布 →通常、本葉1枚展開後に散布し、根張り・生長を強く促進。 ※以後15日経過したら、2度目の散布をするのが効果的。 ※ただし何時でも、生長を進めたい時には根っ酵素液を葉面散布。 ※低温で生育が停滞し、花芽分化(抽ダイ)も心配な時は、根っ酵素液を散布。</p>

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
生育途中の調節	葉面散布 2つの液の葉面散布を 適宜、使い分けてコン ロールする事	<ul style="list-style-type: none">●花咲くCa液500倍を葉面散布※本葉2枚以降に散布して、生育の引締め・病害(白サビ・炭そ)対策をとる。※以後15日経過したら、2度目の散布をするのが効果的。※ただし何時でも、チッソ過多や、葉が薄く、節間が伸びすぎ、軟弱な時、早すぎる生長を締める時には、カルシウムを葉面散布。※寒期にかかる前に散布しておく、寒害に強くなる。 ※原則として上記2種の葉面散布は3日以上あけて交互にする。※もしチッソ肥効が少なすぎ、葉色が薄く、生長が悪い(ただし根は強い)場合は、メガデルトン・ネオスリー800倍で葉面散布をする。
仕上げ	収穫前7~2日、 葉面散布	<ul style="list-style-type: none">●花咲くCa液500倍→葉を厚く充実させ、糖度・旨味を増し、鮮度を長く保つ。

上記は周年栽培、秋冬蒔き(旬の早春穫り)、晩春蒔き(夏穫り)、露地栽培に共通の基準です。